

図書館は、

「情報の力」で
最大限の支援を行います

被災地の皆さんの
調べものや質問は
「だれでも・どこでも Q&A 図書館」
が、無料で引き受けます



<http://savemlak.jp/wiki/daredoko>

日頃の疑問・質問は、こちらから調査依頼を

「だれでも・どこでも Q&A図書館」

～史上最大のレファレンスサービス～

ご質問・お問い合わせは、daredokoqa@gmail.com へ

発起人：国立国会図書館レファレンス協同データベース サポーター有志

図書館は、「情報の力」で 最大限の支援を行います

「だれでも・どこでもQ&A図書館」とは？

「自分で持っていた本を見ることが出来ない」、「図書館が被災をしていて十分な利用ができない」、そんな方々が抱えている様々な疑問・質問に、現地で復興中のため100%のサービスができない図書館に代わって、無事だった地域の有志による回答団がネットワークを通じて答えていこうというプロジェクトです。「だれでも・どこでもQ&A図書館」の名前は、「だれでも質問できる」「だれでも図書館の代わりにになって質問に回答できる」「どこからでも質問できる」「どこからでも質問に回答して支援できる」という意味でつけられました。国立国会図書館レファレンス共同データベースサポーター有志により発足した本プロジェクトは、2011年6月現在で個人42名+4機関が回答団として登録しています。

「回答団」とは？

例えば、「避難所にいる子どもたちやお年よりもみんなで、室内で遊べるゲームが知りたい」「かぎられた食材でつくっている、今の食事のカロリーや栄養の計算を簡単にする方法はない？」「昔、学校で習った歌をみんなで歌いたいから、歌詞を教えて」そんな質問に答えるための専門家や、各地の図書館等の職員がボランティアで参加しています。回答団は「情報提供」という支援で、少しでも被災地が元気になっていくお手伝いをしていきます。

本サービスの対象者について

- 》被災地における図書館
- 》被災地の方
- 》被災地でボランティア活動をされている方
- 》被災地から避難をされている方

ご依頼の方法について（無料）

》「だれでも・どこでもQ&A図書館」

》<http://savemlak.jp/wiki/daredoko>

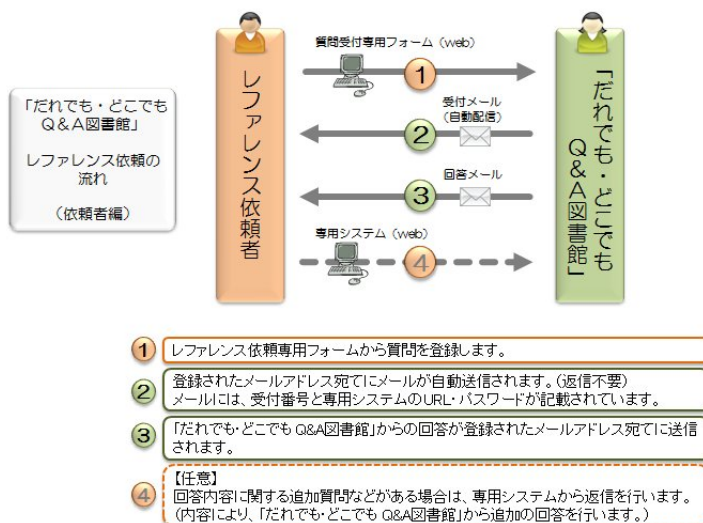
こちらのURLへパソコンでアクセスし、専用フォームへ必要事項を入力してお申込みください。ご利用は無料です。なお、受け付けた質問と回答の内容は、個人情報削除した上で再利用（学術論文への投稿等）することがあります。



賛同者（*五十音順）：レファレンス協同データベースサポーター有志：江草 由佳（国立教育政策研究所）、岡本 真（アカデミック・リソース・ガイド株式会社）、進藤 つばら（東京都立中央図書館）、高久 雅生（物質・材料研究機構 科学情報室）、林 賢紀（農林水産研究情報総合センター）、宮川 陽子（福井県立図書館）レファレンス協同データベース企画協力員：齊藤 誠一（千葉経済大学短期大学部ビジネスライフ学科准教授）その他：井上 昌彦（関西学院 聖和短期大学図書館）、高辻 亜由美（奈良県立図書館情報館）、豊田 高広（田原市図書館）、中山 美由紀（東京学芸大学附属小金井小学校）、外崎 みゆき（関西学院大学図書館）

ご依頼のから回答までの流れ

「レファレンス依頼者」＝「ご質問者」となります。ご依頼を受付後、回答団にて調査し、メールで回答を送信します。



サービス提供期間

2011年9月30日まで 状況により延長することがあります。

お問い合わせ先

当プロジェクトに関するお問い合わせ、「こんな質問もしていいの？」など、気になることはお気軽に次のメールアドレスへお問い合わせください。

》E-Mail：daredokoqa@gmail.com

》「だれでも・どこでもQ&A図書館」事務局 宛て

無事だった図書館の皆さま、
力をお貸しください。

「だれでも・どこでもQ&A図書館」では、「ご協力いただける皆さま “回答団”」を募集しています。サイト内に、「回答団と事務局員の登録フォーム」があります。レファレンス回答だけでなく、事務局へご協力いただける方も併せて募集しています。ぜひ、ご登録をお願いいたします。